

| | | | | | | | | | |
|--------|-------------|------|----|---------|----|-----|---|------|-------|
| 科目名 | 企画科目（深層心理学） | | | 学期 | 後期 | 単位数 | 2 | 担当者 | 山添正 |
| 副題 | - | | | | | | | | |
| ナンバリング | N2-10-272 | 授業方法 | 講義 | 実務経験の有無 | | | 有 | 関連DP | 1,2,4 |

授業の目的と概要

日常生活を送る上で、私たちは、自身の言動をすべて意識して行っているわけではない。例えば、普段口にしないようなことを思わず口走ってしまうことや、平時であればなんでもないことでも、ストレスフルな環境下では、些細なことでも怒りが湧いてくるといったことは誰もが体験していることだろう。このように自身が意識・感知していない領域、すなわち、無意識の心理過程が我々にはあると考え、研究を重ねてきた領域が深層心理学の分野である。本講義では、深層心理学の分野において多大な影響を与えている精神分析学とその諸派の基本的な概念、及び、分析心理学の概念について取り扱う。

授業の到達目標

臨床現場で精神分析の知見を活用する態度を有している。

授業計画

1. 精神分析学以前の学説
2. 精神分析誕生について、夢判断・錯誤行為
3. 無意識の発見・心的構造論
4. 神経症の症例を通じて
5. 自我心理学とライフサイクル論について
6. 自己心理学について
7. 対象関係論について①
8. 対象関係論について②
9. ラカンの精神分析理論について
10. 分析心理学誕生について
11. タイプ論
12. 夢分析
13. 元型論
14. 集合的無意識と東洋思想
15. まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、テキストの関連するページを毎回読み、内容を理解しておくこと（90分）、疑問点は授業で質問する。事前学習したことと授業中に学んだことを踏まえて、授業最後の作文を書く。そして事後学習として授業で学んだ内容に関して、新たに考えたこと、生活の中で気が付いたことをまとめ（90分）、次の授業で発言する。

テキスト

松井紀和『カウンセリングを学ぶ人の為の心理療法の基礎と実際』カウンセリング教育サポートセンター,2001年

参考書・参考資料等

適時、紹介する。

学生に対する評価

レポートにて評価する（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

- （C）精神分析に関心がある。
- （B）精神分析に関する基礎的な知識を身につけている。
- （A）精神分析の知識のみならず技能も理解している。
- （S）臨床現場で精神分析の知見を活用する態度を有している。

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業の最後を実施する作文に書かれた質問や意見については、毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

講義中における活発な質疑、議論を求めます。積極的に参加すること。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

ユング研究所留学で夢分析を学び、フロイト派の分析家にスーパーバイズを受け、深層心理学をユングとフロイトを中心にして学び、さらに臨床心理士としての実務経験を重ねた教員が、学生に日本人の事例を深層心理学的に理解できる能力を身につけさせる。